GUIプログラムの作成

担当:高安亮紀

目的

1. MATLABの「GUIDE」を使い方を学びながら、 基本的なGUIプログラムを作成してみましょう。

2. ball1.mの実行結果をGUI上で表示できるように、 プログラムを作成してみましょう。

※ GUI(Graphical User Interface)とは、 情報表示の際、ボタン・アイコン等のグラフィックス を多用し、マウスで指示できる方式のこと

GUIDEとは

- MATLAB上でGUIプログラムを作成するための
 システム
- GUIDE = GUI Development Environment
- Mファイルとfigファイルの組み合わせで1つの プログラムを構成
- Mファイルから、自分で作成した他の関数な
 どを呼び出すこともできる

・2つの入力枠と2つのボタンを配置し、足し算 と引き算の結果が表示されるプログラムを作成 しながら、GUIDEの使い方を学びましょう。



(1) MATLABコマンドウィンドウに guide と入力します。 (2) 「Blank GUI (Default)」を選択すると、 以下が表示されます。



(3) 左側のメニューがGUIの部品です。部品を画面上に 配置し、クリックしてProperty Inspectorを設定します。



(4) テキストボックス (Edit Text)と、ボタンを以下のように配置し、Property Inspectorを設定してください。



(5) File→SAVE ASを押し、「calc1.fig」で保存をします。 (6) 保存をしたタイミングで、「calc1.m」が自動生成される。

calc1.m



(7) calc1.mの、テキストボックスのコールバック(テキストを入力した ときやボタンが押されたときなどのアクション)を編集します。

edit1, edit2のコールバック関数内に、以下赤文字部分を追加。

```
function edit1_Callback(hObject, eventdata, handles)
handles.edit1 = str2double(get(hObject,'String'));
```

```
guidata(hObject,handles);
```

```
function edit2_Callback(hObject, eventdata, handles)
...
```

```
handles.edit2 = str2double(get(hObject,'String'));
guidata(hObject,handles);
```

※ handles.edit1 は、構造体handlesの中にあるedit1という変数を意味する。
 Property inspectorで編集したTagの名前に合わせる。
 ※ get(hObject,'String') は、テキストボックスから文字列を取り出す。
 ※ str2double(str) は、文字列strを数値に変換する。

```
(8) calc1.mの、プッシュボタンのコールバックを
編集します。Pushbutton_plus、Pushbutton_minus
のコールバック関数内に、以下赤文字部分を追加。
```

function Pushbutton_plus_Callback(hObject, eventdata, handles)
...
res = handles.edit1 + handles.edit2;

```
set(handles.edit3,'String',num2str(res));
```

※ num2str(res) は、res(数値)を文字に変換する。 ※ set(handles.edit3,'String',str) は、文字strをedit3にセットする。

Pushbutton_minusも同様に追加しましょう。

(9) 編集したファイルを保存し、figファイルのウィンドウ にある「Run Figure」(再生ボタン)を押すか、コマンド ウィンドウ上で、calc1と実行。

実行結果:GUIが表示され、計算が出来ます



演習: ball1.mのGUIプログラムを作成

<完成イメージ>



演習: ball1.mのGUIプログラムを作成

- 作成手順
 - 1) 部品の配置: GUIDEを使って、完成イメージのようになるようにテキストボックス、プッシュボタン、座標軸の部品を配置し、ball1_gui.figとして保存する。
 - エディタで編集1: ball1_gui.mの中で、テキストボックスのコールバック部分を探し、入力された数字をそれぞれ初速度と角度として受け取るようにする。
 - 3) エディタで編集2: ball1_gui.mの中で、プッシュボタンの コールバック部分を探し、ball1.mのグラフを出力させる ように設定(次ページにヒントあり)。
 - 4) エディタでファイルを保存
 - 5) 実行: コマンドウィンドウで ball1_gui と入力し、GUI上で 実行する。

演習ヒント: グラフの表示

• 左メニューのグラフを赤枠を画面上の配置します。



演習ヒント: グラフの表示

 ball1_gui.mのプッシュボタンのコールバックに以下 を入力することで、グラフが出力されます

function Pushbutton1_Callback(hObject, eventdata, handles)
~

v0 = handles.edit1; % テキストボックス1でTagをedit1にした場合 ang = handles.edit2; % テキストボックス2でTagをedit2にした場合

ball1(v0,ang);